

練馬・文化の会 会だより

共同代表：有原誠治 大内要三 小岩昌子 小沼綾子 田場洋和 吉田巳蔵
事務局：森田彦一 TEL：03-3951-4276 FAX：03-3951-0616

(会費などの郵便振替：00150-7-130265 練馬・文化の会) ホームページ <http://www.nerimabunka.com/>

2月10日に区役所地下ホールの「2020年東京五輪を考える」に約50人 谷口源太郎氏が基調講演—報道されない五輪「負の側面」を語る

(Our Planet TVから転載)

(ネットの「アワープラネットTV」が平昌冬季五輪開催直後に行われた当会主催の上記シンポを、当日全時間取材し13分程度の番組に編集。「ユーチューブ」でネットしてくれました。当日は残念ながら目標を大幅に下回る50人という参加者数。ただ文化の会のHPでもこのPlanet TVにリンクしていますので、この視聴者数はかなりの数に・・・)

「メディアは「頑張れニッポン！」という報道ばかりで、五輪の本質を伝えていない。」

こんな怒りを抱く市民らが、平昌五輪開会にあわせてシンポジウムを開いた。タイトルは「東京五輪を考える」。約2時間にわたり、報道されない「五輪の問題点」をテーマに議論した。主催したのは、練馬区在住の研究者やアーティストなどをつくる「練馬・文化の会」。スポーツジャーナリストの谷口源太郎さんが基調講演をし、現在の五輪は、選手の人間性や平和への理念を置き去りにし、国家主義や過度な商業主義に走っていると批判した。

五輪は放送権などの問題もあり、マスメディアによる批判はダブーとなっている。谷口さんは、IOC(国際オリンピック委員会)が現在、莫大なコストがかかる五輪維持のためだけに、競技種目を増やしたり、複数の都市での分散開催を認めている現状を解説。「五大陸を網羅して、スポーツを

通して相互理解を深め、人間の尊厳を大切にする平和な社会の建設に貢献する」という五輪の理念にもう一度立ち返るべきだと批判した。

国威発揚に利用を懸念

さらに、朝鮮半島情勢や平昌五輪に対する日本政府の姿勢について、侵略戦争の歴史に向き合っておらず、また平和主義という五輪の理念からかけた離れた態度をとっていると指摘。近代五輪の提唱者であるクーベルタンが、「五輪が平和を促進することも、戦争を引き起こすこともありえる」と記していたことに触れ、アジアに心から謝罪をしないまま、日本政府は東京五輪を利用することで、むしろ戦争する国に進むのではないかとの懸念を表明した。

練馬区で教育問題に取り組んできた中川信明さんは、東京都教育委員会が2年前からオリンピック教育に力を入れていることを報告。公立の小・中・高等学校で学習読本が配布され、算数でオリンピックを扱うなど取り組みが進んでいるという。練馬区内では、陸上自衛隊朝霞訓練場で射撃競技が開催されることに触れ、子どもたちが応援旗の制作や、案内係としてボランティアに動員されることを心配している。中川さんは「子どもたちが射撃競技への間接・直接的に動員されるのであれば、銃や戦争文化に巻き込むことになる」と危機感を強めた。

ヒバクシャ国際署名推進ねりま連絡会が主催；「署名推進」訴える— 2月9日にICANの川崎さん招いた講演会に140名参加

2月9日の夜、ノーベル平和賞を受賞された核兵器廃絶国際キャンペーンICANの国政運営委員である川崎哲(あきら)さんを練馬(区役所地下大会議室)に迎えての「世界は変わる 日本はどうする」講演会は、140名の参加者で会場が埋まりました。品川、板橋、杉並などからの参加もありました。新婦人練馬支部の宮前節子さんの司会で開会。主催のヒバクシャ国際署名推進ねりま連絡会を代表して挨拶に立った私は、会場いっぱいの参加者にお礼を述べて、核兵器廃絶に後ろ向きな日本政府の姿勢を変えるためにも、「川崎さんのお話を力にして、ヒバクシャ国際署名を飛躍的に広げましょ

う」と、呼びかけました。

川崎さんは、パワーポイントでノーベル平和賞授賞式の様子を写

真で紹介しながら、被爆者の運動が世界の反核平和の運動に影響を与えて、今回の受賞につながったと語りました。しかし、政府や行政に付度しな



いノルウェーなどの反核平和の活動に比較すれば、日本のそれはまだまだおとなしいと指摘。日本政府は、核兵器に転用できるプルトニウムを48トンも所有し、世界の核兵器廃絶の動きに背を向けている。政府の姿勢を変える上で、各自治体での決議や首長の署名、そして草の根の署名活動が大切だと強調されました。そして、核兵器禁止条約の中には、核抑止論にしがみついている国を動かすことが出来る条項があると紹介して、参加者の感動を呼びました。

参加者による討論の中では、被爆者練馬の会

(18年2月 有原誠治記)

経済の問題を分かり易く解き明かす真嶋「経済」公開講座に積極的な参加を！

第4回公開講座は3月11日（日）午前10時半～正午（10時15分開場）ココネリ第4研修室
テーマは「深刻化する日本の財政問題—『アベ家の家計簿を解説する』—

安倍政治の根本的な問題はアベノミクスにこそある——という問題意識でスタートしたのが、真嶋康雄氏による「経済」講座です。前事務局長・故古賀義弘氏の遺志を受け継いだものです。ただ経済は「難しい」という風評に押されて、残念ながら出席者は少数にとどまっていますが、真嶋氏の講義は回数を重ねるに従い、分かり易く面白くなってきたというのがこれまで3回連続して受講している人たちの評価です。

の綿平敬三会長が力強く「国際署名にご協力を！」と呼びかけ、元教員の方からは平和教育の大切さが語られました。また、練馬の区長が他区の動向をみながら署名に応じるかどうかとの姿勢にあるとの報告には、会場から驚きの声が上がりました。ヒバクシャ国際署名を広げることで、核兵器廃絶に後ろ向きの日本政府や消極的な練馬区長などの姿勢を変えようとの、熱気と決意あふれる集会となりました。

名護市長選では一方で湯水のように警察派遣に金が使われているのに対し、国の財政援助が大きな争点になり、基地反対の稲嶺氏が敗れる結果をもたらしました。さらに最近の国会審議では裁量労働制のデータの扱いが安倍総理の発言撤回・謝罪をよびこむなど・・・さまざまの側面で、「経済」が争点に浮上しています。この「経済」講座への会員の皆さまの積極的な参加を呼びかける次第です。（田場記）

報告「第3回公開講座」・「雇用・労働の問題」（1月27日に実施）

第3回公開講座「雇用・労働の問題点と国民生活-雇用身分社会の到来か」知って驚く「あなたは大損させられているシリーズ」第3弾、1月27日実施、場所は練馬「ココネリ」。参加者20数名、時間の半分は賃金・給料と国民経済、経済成長との関係、雇用者報酬の減少、労働規制緩和、「ディーセント・ワーク」、「もし経済成長が実現していたら」などの解説。残りの半分

は参加者とのフリートーク、「雇用身分社会とは」、「中国経済の見方」、「ITと人間の関係」、「仮想通貨とは」などの質問が出され、活発なフリートークの時間となりました。皆さんが幅広く経済に関心を持たれていることがわかり、大変参考になりました。これからも皆さんの疑問と関心に応える公開講座を目指して行きたいと考えています。（真嶋記）

第7回江古田映画祭「3.11 福島を忘れない」のご案内

東電福島第1原発事故から7年、福島を忘れてはならないという思いは変わりません。監督や関係者のトークに加え、初日に遠藤ミチロウのミニライブを行います。水俣・ヒロシマ・アスベスト、いのちが脅かされるさまを記録した映画やラジオドラマも用意しました。武蔵大学生や相馬高校の作品も上映します。写真の展示・

店頭販売もあります。どうぞお越し下さい。

○とき 2018年2月24日（土）～3月11日（日）

○会場 2月24日（土）武蔵大学1号館地下1002シアター教室

2月25日（日）～3月11日（日）ギャラリー古藤 練馬区栄町9-16

上映作品は、「SHIDAMOYOJIN」「カノンだよりvo

1.5 「福島県立相馬高校放送局震災を伝える」
 「水俣－患者さんとその世界」 「いのちの岐路
 に立つ ～核を抱きしめたニッポン国～」 「祝
 福（いのり）の海」 「被ばく牛と生きる」 「原
 発の町を追われて」 「日本と再生 光と風のギガ
 ワット作戦」 「アトムとピース～瑠衣子 長崎
 の祈り～」 「アトミック・ママ」 「『知事抹殺』
 の真実」 「武蔵大学永田浩三ゼミ4作品」 など
 の20作品。また、連日ゲストをお迎えし、鎌仲
 ひとみ監督、小池征人監督、河合弘之監督、飯
 田基晴監督、原村政樹監督、我孫子亘監督など1

6人のライブやトークがあります。
 詳しい上映スケジュールは別紙江古田映画祭チ
 ラシ参照。
 予約優先入場 各回40名定員制、 ギャラリー
 古藤でのチケットは、電話・メールでの予約を
 お願いします。
 ○お申込みメールアドレス fwge7555@mb.inf
 oweb.ne.jp 電話 03 (3948) 5328
 映画1本(組)につき(短編は複数上映の場合あり)
 [大人] 予約 1000円 当日 1200円
 (田島記)

「未来区ねりま」一引き続き区長選で市民と野党の統一候補を追求

4月15日投票の練馬区長選に向けて、私たち
 「みんながつくる『未来区ねりま』-10000人委
 員会-」は、12月から、選考委員会を発足し、候
 補者選びを進め、約17人に当たってきましたが、
 2月20日現在選ぶことが出来ませんでした。

今回の区長選は、区内の野党が統一して初め
 て臨んだ選挙戦でした。議員団を含めて一致団
 結して、取り組むことになりましたが、肝心の
 候補者が決まっています。

いずれ候補者が決まることとなりますが、今
 回の組織は、今後の市民と野党の共闘という意
 味で非常に勉強になりました。「みんながつく
 る『未来区ねりま』-10000人委員会-」は、選挙
 後も継続することになっています。

新しい体制のもと、4年後の区長選の勝利に向
 けて、先に進むこととなります。

今回の中で、一番気づいたことは、練馬区民
 は、もっともっと練馬区の行政について関心
 を持たなければならないということです。

もちろん、モリカケ問題、戦争法、秘密法、
 原発問題、築地市場問題など国政・都政に関心
 が集中するのは当たり前で、当然闘わなければ
 ならない問題は、山積みされされています。

しかし、同時に地方自治の重要性からも、地
 域における、練馬区民の生活の面からも、最も
 身近な練馬区政にもっともっと関心を持って頂
 きたい。私を含めてこうしたある種無関心の状
 況が、区政を区民から引き離してしていると思
 います。日々、努力している区職員、議員の人
 と一緒に練馬区政を改革し、監視していかなけ
 ればなりません。

(森田彦一記)

1月6日の新年会 45人が参加し、盛りあがる

今年の新年会は、1月6日、区役所20階交流会
 場で開かれ、沖縄映画祭で協力している「もあ
 い練馬」のメンバーも含めて、併せて45名が参
 加しました。会員の桂南なんさんの落語に始ま
 り、各会員の最近の状況を語り合いました。桂
 南さんは、風邪気味で声を出しづらいついなが
 らも、得意の演目を語り、会場を沸かせまし
 た。また、武蔵大の協力を得て制作された自衛
 隊関連の「練馬駐屯地を見たものは」のDVD
 を流し、今まで見られなかった人にも、演習訓
 練の迫力の凄さが感じられました。挨拶のなか
 では名誉顧問である彫金家の岡部昭さんが、か
 つての練馬の美術家の思い出、昨年末、練馬美術

館で開かれた「9条美術展」の話などをなされ、
 90歳とは思われないほど元気でした。ジャーナ
 リストの西中誠一郎さんも「原発は、7年たとう
 としているが、全然終わっていない」と政治状
 況の危機を語りました。

練馬・文化の会のホームページも寺崎さんの
 努力下、素晴らしい内容となっていますが、こ
 れからは、寺崎さんの指導の下に、他のメンバ
 ーが、引き続いて進めていくことなどが、話さ
 れました。また、幹事会のメーリングリスト、会
 員のメーリングリストもスタートしていますの
 で、これらの積極的な活用による会活動の強化
 が問われます。
 (森田記)

**もあい練馬と共同で（第3回）ねりま沖縄映画祭の開催へ
9, 10月に練馬、大泉、江古田の公共施設使い原則土日に
3月1日（木）後7時～ココネリで「カメジロー」試写会兼打ち合わせ**

一昨年は江古田にある古藤で催し、昨年は練馬区役所多目的室やココネリの練馬駅周辺の施設を使って開催した練馬沖縄映画祭を今年も実施することになりました。おおむねの予定日は9月下旬から10月中旬までの土・日で行い、場所は練馬駅周辺や大泉学園での開催となる予定です。

上映作品につきましては、今後実行委員会で検討していくこととなりますが、会員の皆様からこの映画を上映してほしいという要望があれば、上映候補として選考の対象としたいと思っ

ています。是非上映を希望する作品をお知らせ下さい。

このイベントは、他団体の協力を得て練馬文化の会45周年記念事業として発足したのですが、今年度からは練馬文化の会等が多くの団体の協賛を得ての実施になる予定です。ここ1・2年の参加者の傾向を見ていますと、練馬文化の会の会員の参加者が少なく主催者としては忸怩たる思いをしています。会員本人が参加できなくても周囲の人に声をかけて参加を勧めていただきたいものと思っています。（轡田記）

青年劇場「あの夏の絵」、練馬で公演へ

**実行委員会（3月3日（土）6時半～区役所1906会議室）にご参加を！
7月13日（金）に生涯学習センターホールでの公演を予定**

青年劇場の大平さんから、練馬・文化の会に、青年劇場の「あの夏の絵」（福山啓子・作・演出）の練馬での公演への協力要請がありました。この作品は昨年初演されたもので、広島の高校生が美術部の活動としてヒバクシャからの聞き

取りで「被ばくの絵」を描くという取り組みをテーマにしたものです。ヒバクシャ国際署名を始めようという矢先のイベントの提起。文化の会としてもメイン行事として総力を挙げて取り組む必要があります。（田場記）

**カラー3枚片折りの「文化の会」入会パンフレットが完成（同封）—1000枚のパンフで
果たして何人、会へお誘いできるか—会員間競争をよびかけます！**

今回、入会パンフレットをリニューアルしました。ここ近年実施した学習会等のイベントの記録を載せて、練馬文化の会がどのような活動を行ってきたかをわかりやすく書いてありますので、会の具体的なイメージがよりよく掴めるのではないかと考えております。

このパンフレットを、会に関心を持ちそうな人に渡していただき、入会を勧めていただきたいものと思っております。会員の数が増えます

と、全体の会費の収入が増え、そのことによって会費の低減が可能になることも考えられます。

会員の数を増やし、会費をさらに安くし、多くの人によって支えられる会にしていくためにこのパンフレットを有効にお使いいただければと思っております。なお、パンフレットをもつと欲しいという方にはお送りしますので事務局までお申し出ください。

（轡田記）

**沖縄に任せず、本土の我々が声をあげよう！（署名チラシ同封）
高江、辺野古で戦う山城さん等3人の無罪判決署名を5日必着で沖縄に送付を**

名護市長選の取りこぼしがあったとはいえ、今度は年内の沖縄知事選の戦いが控えており、戦いは「あきらめられない」のです。高江、辺野古で先進的に闘ってきた山城、稲葉、添田3人の裁判が3月14日に那覇地裁で行われます。時間は切迫しています。

署名チラシを同封しましたので、よくお読みいただき、3月5日那覇の沖平和運動センター必着で署名お送りください。本土の我々も「あきらめられない」という意思表示が求められる時代を迎えています。

（田場記）